

1. 保健指導のあり方に関する研究

②最近の一、二歳児の発達

母子保健研究部	加藤 忠明
保健指導部	望月 武子 ・ 中野 恵美子
	青木 菊麿
児童家庭福祉研究部	庄司 順一
母子保健研究部	松浦 賢長 ・ 平山 宗宏

要約： 1970年前後の1、2歳児に比べて、1991年の1、2歳児の発達は早くなる傾向が認められた。また、自分の子どものことを、外でよく遊んで、友達がいる子と感じている母親も増加し、そのことと1、2歳児の発達の早熟化傾向との関連性が考えられる。乳児健診受診時の主訴数の多さは、18-24か月健診時に「児の行動」や「母子関係」に関して要経過観察となる可能性の高さと関連していた。また、乳児期の発達項目、「あやすと笑う」、「首すわり」、「お座り」、「つかまり立ち」、「はいはい」、「伝い歩き」、「一人歩き」、「発語」、「命令理解」等と、18-24か月健診時の「児の発達」との関連が認められ、乳児期に発達が遅れていた場合、18-24か月の発達が経過観察となる割合が多かった。

見出し語： 一歳児、発達の比較、発達の予測性、発達の縦断研究、乳幼児健診

2. Development of Recent Children at 1 and 2 Years of Ages

Tadaaki KATO, Takeko MOCHIZUKI, Emiko NAKANO,
Kikumaro AOKI, Jun-ichi SHOUJI,
Kencho MATUURA, and Munehiro HIRAYAMA

Summary: The children in 1991 had a tendency to develop earlier compared as the children in 1970. The former mothers were more feeling that their children had friends and played outside. They are considered to have the relationships with earlier development of children. The number of complaints in health guidance at 0 year of age had significant correlation with the need for follow-up guidance about "the behavior of infant" and about "mother-infant relationship" at 18-24 months of age. The inquiry items about development at 0 year of age had significant correlation with later development in infancy.

Key Word: children at 1 & 2 years of ages, comparison of development, predictability of development, longitudinal study of development, and health guidance of infant

I 研究目的

一昨年度は0歳児の発達に関してまとめ、乳児の発達が最近やや早めになっていること等を報告した¹⁾。最近の子どもの環境は、昔と比べてさまざまな面で変化がみられ、それによる1、2歳児の発達の変容の可能性が考えられる。そこで、今年度は一昨年度に引続き、1、2歳児の発達を調査した。また、0歳児の発達に関する問診項目等が、どの程度発達の指標として重要な意味をもつものなのか、1、2歳児の発達との関連性を調査した。

II 対象

対象は前述の報告とほぼ同様、保健指導部の健康診査受診児2152名(男児1110名、女児1042名)である。この対象児のうち、生後17-18か月時の受診児は1251名(受診率58.3%)、生後19-20か月時の受診児は96名(4.5%)、生後21-22か月時の受診児は16名(0.7%)、生後23-24か月時の受診児は1087名(50.5%)であった。対象児のうち1500-2499gで出生した低出生体重児は122名であった。

III 方法

主として母親への問診により記載されている保健指導部カルテ²⁾をデータシートに書き写した後、帝京大学の大型コンピューターでSASを使用し分析した。最近の1、2歳児の発達を以下のように評価し、以前の同様の調査と比較等を行った。

1、発達の達成割合

比較的受診児数が多かった17-18か月、23-24か月時の受診児に関して、発達項目の達成割合を求め、1、2歳児の発達を評価した。月齢表示の達成割合は、例えば17-18か月児の場合、生後17か月0日から18か月30日までの受診時点で、ある発達項目が可能であった割合である。以下1991年値と略す。

2、発達の年代別比較

1970年前後に同部を受診した1、2歳児の同様の調査(調査期間は1960-1975年であるが、その約90%は1969-1975年出生児である。以下1970年前後値と略す)^{3, 4)}と比較した。

3、健診同伴者の有無別の発達比較

生後1か月前後の健診時に父親が同伴した場合(1か月健診受診児1010名中204名)、また、祖父母のうち誰かが同伴した場合(1010名中300名)、1991年値はどのような傾向がみられるか分析した。

4、発達の予測性

各月齢別の乳児自身の発達項目や主訴数(いずれも母親への問診による)と、医師または、心理相談による生後18-24か月児の発達評価との関連をみた。

IV 結果

1、発達の達成割合

17-18か月児1251名、23-24か月児1087名に関する主な1991年値を表1に示す。

2、発達の年代別比較

1991年値と1970年前後値に関して、カルテ記載が全く同じ内容の項目は必ずしも多くはなかったが、その項目のみを比較した。

表1 月齢別発達の達成割合(1991年値)

月 齢	発 達 項 目 (達成割合 %)
17~18か月児	上手に歩く(99.0%)、走る(92.6%)、手をひかれ階段をあげる(96.8%)、なぐり描き(98.2%)、積み木を2~3個積む(93.3%)、子どもの中で機嫌よく遊ぶ(97.0%)、大人とボールの投げ取り(97.6%)、掃除や化粧などをまねる(98.7%)、単語(98.9%)、二語文(40.5%)、簡単な指示や命令に応じる(98.3%)、絵本をみて物の名をいう(84.1%)
23~24か月児	よく歩く(97.3%)、走る(99.3%)、両足とび(89.1%)、つかまって階段のぼりおり(95.2%)、つかまらずに階段のぼりおり(89.7%)、ボールをける(93.7%)、垂直線を描く(84.6%)、外でよく遊ぶ(95.4%)、友達がいる(85.5%)、他の子に関心を示しまねる(97.9%)、単語(99.7%)、二語文(88.1%)、よくしゃべる(97.5%)、歌う(91.0%)、なあにとよく聞く(80.1%)、歯みがき(95.0%)、手洗い(98.5%)、排泄のしつけ開始(66.5%)、誘って排泄可能(63.4%)、排泄でたら教える(88.4%)、排泄する前に教える(65.7%)、衣服の着脱自分でしたがる(91.0%)

17-20か月児の1991年値と1970年前後値に関して、「走る」が可能な割合は、前者1227/1320=93.0%、後者1050/1205=87.1%、「単語」を話せる割合は、前者1318/1332=98.9%、後者1595/1698=93.9%と、1991年値が有意に多かった（ $p<0.001$ ）。しかし、「二語文」、「簡単な指示や命令に応じる」の達成割合には有意差が認められなかった。

23-24か月児の1991年値と、23-26か月児の1970年前後値に関して、「外でよく遊ぶ幼児」の割合は、前者1017/1066=95.4%、後者715/964=74.2%、「友達がいる幼児」の割合は、前者911/1065=85.5%、後者905/1329=68.1%、「二語文」を話せる割合は、前者835/948=88.1%、後者1025/1332=77.0%、「歌う」割合は、前者935/1028=91.0%、後者705/875=80.6%と、1991年値が有意に多かった（ $p<0.001$ ）。

3. 健診同伴者の有無別の発達比較

1か月健診受診時に父親が同伴していた場合、23-24か月児が「三輪車に乗っている」、「排泄をさそっている」、「排泄は出たら教える」割合が多少多かったが有意ではなかった。

4. 発達の予測性

18-24か月健診で小児科医の診察により発達上要経過観察となったり問題点を指摘された11人（0.5%）、18-24か月健診で心理相談員により、発達に関して経過観察の必要性を認められた160人（7.4%）、行動を経過観察113人（5.3%）、母子関係を経過観察119人（5.5%）、その他の心理上の問題点（家庭環境、生活リズム、母親の希望等）を経過観察58人（2.7%）について、有意な関連がみられた1-12か月健診時の問診項目等を表2に示す。

8-12か月健診での要経過観察例と乳児期の発達や主訴数との関連を調査した前報⁵⁾に比べて、項目数は多少、少なくなっていた。しかし、前報と同様、乳児健診受診時の主訴数の多さは、18-24か月時の「児の行動」や「母子関係」での要経過観察と関連していた。また、一般的な乳児期の発達項目、「あやすと笑う」、「首すわり」、「お座り」、「つかまり立ち」、「はいはい」、「伝い歩き」、「一人歩き」、「発語」、「命令理解」等と18-24か月児の「児の発達」との関連は多く認められた。乳児期の各月齢で発達が遅れている場合、18-24か月時の発達が経過観察となる割合が多かった。しかし、発達が平均より早い場合は、18-24か月時の発達評価とほとんど関連がみられなかった。

幼児健康度調査⁶⁾によれば1980年と1990年の幼児の発達に特に差は認められなかったが、今回の調査では1970年前後値に比べて、1991年値の発達は早くなる傾向が認められた。また、自分の子どものことを、外でよく遊んで、友達がいる子と感じている母親は、最近20年の間に増加していた。外遊びや友達がいることの重要性が一般によく認識されてきており、そのことと幼児の発達の早熟化傾向との関連性が考えられる。1970年前後は日本経済の高度成長期であったが、最近はより家族のことや心の問題が重視される傾向にあり⁷⁾、一般の子どもの環境は以前に比べ改善された面もあると考えられる。

母親が育児をする上で誰が援助者になりやすいかを知る一つの指標として、受診時の同伴者の有無をみた。しかし、1歳児の発達と有意な関連性はみられなかった。育児の援助者の調査には別の視点も必要であろう。

乳児期の発達はその後の発達と有意な関連が多くみられた。ただしその関連は、一般の1、2歳児が発達評価で経過観察となる割合5-10%が、乳児期の発達で多少遅れ気味の場合10-30%くらいになる程度である。

表2に示した発達の問診項目等は、発達の指標として重要な意味をもつと考えられるが、将来の児の発達を予測できるものではない。発達の遅れを示す乳児の場合、注意深い診察や診断が必要であるが、親に不安を与えないよう、また、親の心配事に対して適切に相談にのる必要がある。

参考文献

- 1) 加藤忠明、望月武子他：最近の乳児の発達。日本総合愛育研究所紀要第27集：7-10、1991。
- 2) 高橋悦二郎監修：乳幼児健診と保健指導。医歯薬出版、1993。
- 3) 加藤忠明、望月武子他：乳幼児期の情緒・言語発達に関する縦断的研究。日本総合愛育研究所紀要第25集：3-8、1989。
- 4) 望月武子、加藤忠明他：乳幼児期の運動発達、生活習慣に関する縦断的研究。日本総合愛育研究所紀要第26集：12-14、1990。
- 5) 加藤忠明、望月武子他：発育・発達に関する縦断的研究。日本総合愛育研究所紀要第28集：7-16、1992。
- 6) 日本児童手当協会、日本小児保健協会：平成2年度幼児健康度調査報告書。1991。
- 7) 統計数理研究所：国民性の研究、第8回全国調査。1989。

V 考察

表2 18~24か月の発達評価と関連が見られた12か月以前の間診項目等

12か月以前の健診時に問題のあった間診項目等		18~24か月健診の評価で経観となった理由			
		発達	行動	母子関係	その他
1 か 月	主訴の数		*		
	問診・顔をみつめる	**			
2 か 月	主訴の数		*	*	
	問診 あやすと笑う 腹臥位で顔を横に向ける 腹臥位で頭をもちあげる	*	*	**	
3 か 月	問診 あやすと笑う がらがらを握る	*** ***			***
4 か 月	主訴の数			*	*
	問診 首すわり 声を出して笑う 足をつっぱる	*		** **	
6 か 月	主訴の数	*			
	問診・お座り	***			
7 か 月	問診 支え座り 立たせてつかまり立ち いないいないばあを喜ぶ	* **		**	*
8 か 月	問診 お座り ずってはう 四つばい 立たせてつかまり立ち 一人でつかまり立ち 伝い歩き	* ***			
		***	*		
		***	*		
		***	***		

12か月以前の健診時に問題のあった間診項目等		18~24か月健診の評価で経観となった理由			
		発達	行動	母子関係	その他
10 か 月	問診 伝い歩き 一人立ち 引き出しをあけて出す 後追い 動作を見てまねる 発語 言葉をきいて動作 小さい子の動きを 興味をもって見る	*** ** ** ** *** * ** **	*		
12 か 月	主訴の数			**	
	問診 伝い歩き 一人立ち 一人歩き じょうずに歩く なぐり描き バイバイをする 発語 簡単な命令を理解	*** *** *** *** *** *** *** ***	*		
8~10か月健診の発達評価で経観となった理由					
発達		***	***	***	
行動			*	*	
母子関係			**	***	

X² 検定 * : p<0.05, ** : p<0.01, *** : p<0.001